

# 10月の果実の見通し

品目	区分	入荷量(t)			単価(円/kg)			山形県産前年実績		コメント
		前年実績	前年比見込(%)	5カ年平均	前年実績	前年比見込(%)	5カ年平均	前年入荷量(t)	前年占有率(%)	
みかん類		14,356	93	15,071	192	93	178	0	0.0	熊本、長崎、愛媛産中心の入荷となる。極早生から早生・中生へ改植する動きがあるが、露地ミカン全体で前年並みの数量があり、不足感はない。極早生種の生育は前進傾向にあり、10月中旬には数量がまとまってくる見込み。価格は前年を下回る見込みだが、販売しやすい価格。天候不良の年であるが、厳選された商品の出荷を行うことで、市場流通への信頼が高まると思われる。
りんご類		8,521	102	8,182	254	98	258	1,610	18.9	青森、長野、山形産中心の入荷となる。品種は「早生ふじ」「シナノスイート」中心の販売。生産量は前年並みからやや増、価格は前年並みを見込んでいる。
なし類 (日本なし、西洋なし)		3,818	前年を上回る	5,378	284	110	239	327	8.6	大分、栃木、山形、長野産中心の入荷となる。日本なしは「新高」「南水」「にっこり」など晩生の実力あるなしがそろそろ。激戦の中どのように特色をだして販売するかが重要。仕上がりは例年通り。西洋なしは「ラ・フランス」の出荷が月末から始まる。価格が前年を上回る見込み。
かき類		8,196	109	8,986	253	103	248	124	1.5	和歌山、奈良、福岡産が中心となる。「種なし柿」は生育期間の雨が多く、肥大順調、糖度などの品質は例年通りであり、出始めから前年を上回るペースで出荷されている。「早秋」「太秋」など甘柿の出回りもはじまり、下旬には「早生富有」もはじまる。露地柿出始めのこそ価格は前年を下回ったが、販売環境はよく、豊作年であるが荷動きは良い見込み。
ぶどう類		2,615	103	2,439	716	98	689	140	5.3	長野、岡山、山梨産が中心となる。「巨峰」「ピオーネ」「シャインマスカット」など大粒品種の出回りが9月中旬からピークを迎えている。産地も秋の訪れが早かったことから着色よく、出荷が前進気味。雨が多く大玉に仕上がっており入荷量は前年をやや上回る見込み。秋果実として引き合いはあるが、これまでの高値の反動で厳しい販売が続く見込み。価格はほぼ前年並み。